

## もくじ

- P.1 アジア社会福祉従事者研修を再開!
- P.3 インドネシア・ジャワ島西部地震の被災地に支援
- P.4 育むプロジェクト ついに始動!
- P.6 第25回日本・韓国・台湾民間社会福祉代表者会議を開催

## アジア社会福祉従事者研修を再開!

アジア社会福祉従事者研修は、アジア各地域の福祉現場で活動するワーカーを日本に招き、日本語学習を受けた後、施設研修などを通して、日本の社会福祉について学びを深める事業です。1984年に開始し毎年実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年より実施を見送っていました。

この度、入国制限の緩和をふまえ、4年ぶりに研修事業を再開し、2023年3月14日に、第37期生として5名の研修生が来日しました。

11か月間にわたる研修期間のなかで、これまで同様、施設見学や施設研修を予定しております。皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## ● 第37期研修(予定) ●

3月14日	来日
3月～7月	日本語学習 (6月施設見学)
7月～8月	第1回施設研修
9月～ 2024年1月	第2回施設研修
2月22日	修了式

住民登録のために  
市役所へ

日本語の先生との懇談



全社協へ初来局

## 第37期研修生のご紹介

(敬称略)

韓国



チョイ ヨンギョン (愛称：チョイさん)

(専門：障害者福祉)

韓国では、作業療法・理学療法を含む機能強化、職業訓練、生涯学習など障害者支援を行う団体で働いていました。日本の文化、社会福祉の政策や実践、福祉サービスの組織と運営、地域ベースの総合ケア制度を学びたいです。

台湾



ジャン シンツ (愛称：シンツさん)

(専門：児童福祉)

台湾では、子ども・青年・貧困家庭等の福祉の向上・支援する団体で働いていました。日本では、児童分野での知識を向上させ、それを所属施設に応用させたい。高齢化社会への対処、支援を知りたいです。

タイ



スキャン ヤンウォン (愛称：アイさん)

(専門：児童福祉)

タイでは、低所得世帯の若者の教育や学習を促進する団体で働いていました。日本では、社会福祉の知識を深め、より多くのサービス利用者に対応できるような働き方を学び、組織の発展に貢献したいです。

スリランカ



イスル バンダーラ (愛称：イスルさん)

(専門：児童 / 障害者福祉)

スリランカでは、特別なニーズ (盲・ろう) のある子どもたちの通う学校で働いていました。日本では、助けを必要とする人びとにどのように手を差し伸べるのか、所属施設の子どもや組織、母国スリランカに対し自分ができていることを学びたいです。

インドネシア



リズキ アクマル (愛称：リズキさん)

(専門：社会開発)

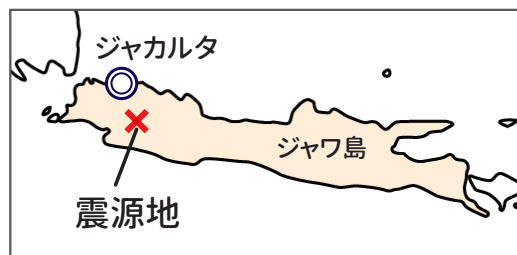
インドネシアでは、社会福祉資源の能力強化や社会福祉サービスの質の向上等の社会開発を促進する団体で働いていました。日本では、社会サービスの制度と方法を、施設での研修を通して学びたい。子どもと家族、高齢者サービス、障害者のアクセシビリティについて知識を深めたいです。

# インドネシア・ジャワ島西部地震の被災地に支援

2022年11月21日、インドネシアのジャワ島西部を震源とするM5.6の地震が発生しました。所属団体に災害対応チームをもつナンダンさん（23期）からは、震源地の西ジャワ州チアンジュールで多くの負傷者や建物被害が発生していることが報告されました。73,300人以上が避難生活を強いられました。そのなかには障害のある人が250人含まれていました。

国際社会福祉基金では、これまでも、アジア社会福祉従事者研修で築いてきたネットワークを生かし、修了生の活動地域で大きな災害が発生した際には、修了生の協力を得ながら、被災地におけるニーズを把握するとともに、支援活動を行ってきました。

今回、被災地で活動する2名の修了生より、災害支援活動への助成申請がありました。これを受け、国際交流・支援活動会員の会費を活用させていただき、支援を行いましたので、以下にご紹介します。



● 死者	310名
● 負傷者	4,630名
● 建物損壊	58,049棟
● 被災した障害者	250名

(2022年11月26日時点)

**ナンダン (23期)**  
サウダラ・セジワ財団

## 「被災した高齢者や障害者への支援」

### ■概要

テントなどで避難生活をしている、または被災した自宅に住み続けている高齢者や障害者には、十分な寝具や医薬品、衛生用品等、政府による生活物資が行き届いていません。そのため緊急支援としてそれらの物資の購入費を支援しました。

■支援額 約41万円



**ワワン (19期)**  
ソシエタ・インドネシア財団

## 「財団が運営する施設の修繕」

### ■概要

ワワンさんたちは、虐待を受けた子どもたちなどを一時保護する活動を行っています。地震により屋根や居室、台所が被害を受けました。子どもたちは地域の協力者のお宅で生活しており、またテントを建てて被災した地域の人びとへの食事の提供を続けています。そのため、建物被害への修繕費として緊急支援を行いました。

■支援額 27万円

## 「被災者たちよ、ともに立て直しを」

### ■概要

被災した地域の子どもや女性への心理社会的な支援、農業による若者への自立支援のための活動を実施します。

■支援額 30万円  
(2023年度修了生助成事業として実施します)

※ワワンさんの活動に対し、全国老人クラブ連合会から寄付をいただきました。緊急支援、助成に活用させていただきます。

修了生として、さまざまな恩恵をいただきました。知識や技能、経験ばかりでなく、助成金を含む支援もいただき、母国インドネシアにおける社会福祉サービス活動に、より一層まい進することを心に誓いました。

現在、私はサービス継続のための人的資源の一端を担うべく、鋭意努力しています。被災という深刻な逆境にもめげず、ソシエタ・インドネシア財団を含む社会福祉施設のために働きたいと思います。



支援活動の様子を全社協ホームページで紹介しています。



## 育むプロジェクト ついに始動!

### 「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクト（通称：育むプロジェクト）とは？

修了生とのネットワークを生かし、アジア各地域において、経済的要因等により教育や職業訓練を受けられる機会が得られない子どもたちを対象に、経済的な支援に加え、日本の支援者との双方向の交流等のこころの支援を行います。

初年度となる2023年度は、5か国・37名の子どもたちへの支援を行います。

### 修了生プロジェクト・チーム（PT）メンバーと支援を行う子どもたちのご紹介

育むプロジェクトは修了生によって組織された各国のPTが、子どもたちへの支援を管理し、支援の申請や報告を行います。PTには、子どもの担当者（修了生や所属団体のスタッフが務める）を置き、子どもたちへの支援金、メッセージの受け渡しなど、直接支援を行います。（□は各国PTのリーダー・敬称略）

#### フィリピン



リーダー

ジュリエット  
(36期)

(メンバー) イメルダ (13期) カッチ (17期) エナ (34期)

7～16歳の子どもたちは、親がいない、高齢の祖父母が養育している、母子世帯であるなど、決まった収入が得られず、いずれも世帯収入が乏しい家庭です。少数民族の家庭の子や、学習障害のある子どももいます。電気技師、教師、エンジニア、警察官などになる夢を持っています。支援金は学校に通い続けられるよう、学用品、交通費、給食費などの就学費用に使います。

支援する子ども  
7人  
支援総額  
350,000円

#### タイ



リーダー

ソムチャイ  
(4期)

(メンバー) オンサクル (2期) ソムラック (8期) サンチャイ (15期) ターイ (23期)

15～17歳の子どもたちは、いずれも職業訓練を希望しています。少数民族や移民（無国籍）などのため世帯収入が乏しい家庭です。みなさんは、ホテル、調理、観光、教育（教師）などの分野で働くことを目標としており、いずれも就労によって家族を支えていくことを望んでいます。

支援金は専門学校・職業訓練のための学費、制服などに使います。

支援する子ども  
7人  
支援総額  
350,000円

#### マレーシア



リーダー

スティーブン  
(11期)

(メンバー) カラデヴィ (10期)

スティーブンさん（11期）とカラデヴィさん（10期）が担当する8～14歳の子どもたちです。親がいない、高齢の祖父母が養育している、母子世帯であるなど世帯収入が乏しく、小中学校への通学を続けることを希望しています。

支援金は制服、給食費など通学にかかる費用に使います。

支援する子ども  
8人  
支援総額  
350,000円

## スリランカ



リーダー

セートウンガ  
(2期)

(メンバー) ナンダ (8期) サンジーワ (23期)

セートウンガさん (2期) が担当する7人の男性は17～18歳で、施設(孤児院)から退所後、自立した生活を送るために、それぞれの特技を生かした職業訓練や就学のために支援を希望しています。サンジーワさん (23期) が担当する8歳の女の子は母子世帯で聴覚障害がありますが、養護学校への通学の継続を希望しています。

支援する子ども

10人

支援総額

350,000円

## インドネシア



リーダー

ナンダン  
(23期)

(メンバー) エレナ (28期) ジョコ (32期) アニサ (35期)

13～17歳の子どもたちは、父とともに知的障害のある女性、ネグレクトの被害を受けた子、家庭内暴力を受けて精神障害のある子など、複雑な家庭環境にあります。中学、高校の通学継続を希望しており、支援金は学費や制服、医療費、文具などに使います。

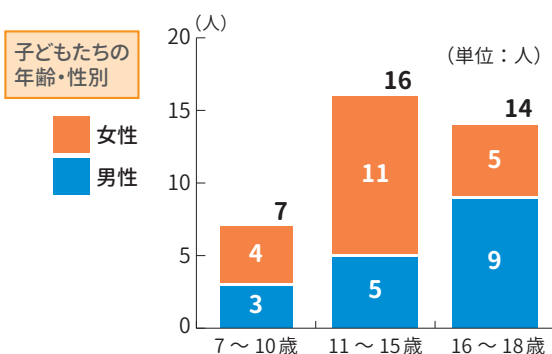
支援する子ども

5人

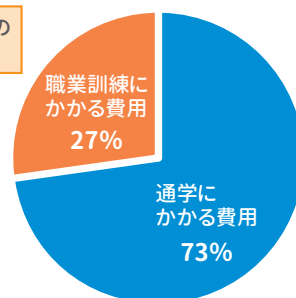
支援総額

260,130円

### 2023年度の支援内容



支援金の用途



### 育むプロジェクトに参加しませんか？

「育むプロジェクト」では、子どもたちへの支援金を送信した後、子どもたちからのメッセージ（言葉や絵、動画など）を、各国のPTを通して寄せてもらいます。その後、国際交流・支援会員の皆様には子どもたちからのメッセージをご報告するとともに、6月を目途に会員の皆様からの子どもたちへのメッセージを募集します（翻訳は事務局および各国PTで行いますので日本語で結構です）。皆様からのメッセージを各国のPTにお送りすることで、今後、「こころの支援」を重ねていきたいと考えております。

また、2023年度は各国修了生の母国を訪れるスタディツアーの再開も予定しており、プロジェクトに関わる修了生や子どもたちを尋ねる企画も検討してまいります。

ぜひ、皆様も国際交流・支援会員として、「育むプロジェクト」に参加しませんか？



会員区分	育むプロジェクトへの参加※	育むプロジェクトへの拠出
法人・組織会員 (1口 50,000円)	●	●
個人会員 (1口 5,000円)	●	●
賛助会員 (1口 50,000円)		●
<b>新規</b> 育むプロジェクト支援会員 (1口 5,000円)	●	●

※子どもとのメッセージ交換などを実施します

# 「子どもの健やかな育ちの保障」をめざして協議 第25回日本・韓国・台湾民間社会福祉代表者会議を開催

## 日本・韓国・台湾民間社会福祉代表者会議とは

共通の社会福祉課題をかかえる日本・韓国・台湾の福祉関係者が集い、さまざまな方面からの情報・意見交換をする場として開催し、国際理解・交流を推進するための会議です。全社協の呼びかけによって1996年に開始し、各国持ち回りにより隔年で行っています。

2022年12月8日、第25回の日本・韓国・台湾民間社会福祉代表者会議をオンライン形式で開催し、全社協、韓国社会福祉協議会、ICSW台湾の関係者をはじめ、国内外から施設関係者や研究者など100名を超える方が参加しました。

今回は、「子どもの健やかな育ちの保障」をテーマに、少子化や新型コロナのパンデミックの影響をふまえた、子育て環境の変化、子どもの貧困、児童虐待の深刻化など共

通した課題について、政策動向と実践の観点から報告、意見交換、協議を行いました。

プログラムの最後に行われた、各レポートのスピーカーと参加者を交えての全体ディスカッションでは、こども家庭庁設置への関心が示されたほか、子どもの育ちを保障するための環境の重要性など、三か国で共通する課題や支援のあり方に関して意見が交わされました。

## 開会挨拶



全社協  
清家 篤 会長

近年の子ども・子育てを取り巻く状況を見ると、少子化が進むなかで、新型コロナパンデミックの影響を受けて親の就労環境や日常生活が大きく変化し、子育てへの影響とともに、子どもの貧困や児童虐待が深刻化するなど、それぞれの国と地域で共通して現れている課題がある。全社協の掲げる2040年の社会を見据えた「全社協福祉ビジョン2020」では、ともに生きる豊かな地域社会の実現のため、福祉組織・関係者による重層的な連携・協働を深め、多様な活動主体による福祉活動の実践に取り組むことを掲げており、子どもの健やかな育ちの保障も重要な課題である。三か国・地域における多様な取り組みと知見が共有され、実りある意見交換がなされることで、子どもの豊かな育ちが保障された「子どもを中心にいた社会」が実現されることを期待する。



韓国社会福祉協議会  
ス・サンモク 会長

日韓台は距離が近く、経済だけでなく、社会福祉システムも類似して発展しており、お互いの経験を共有することによって学び得ることが多い。今回のテーマは、コロナによって子どもたちの取り巻く環境が完全に変わったいま、必ず解決すべき大変重要でタイムリーなテーマである。発表を通じて、子どもたちのための政策や実践における類似点と相違点を見つけ、三か国・地域の、さらに全世界の社会福祉の発展に貢献できる機会になることを期待している。



ICSW台湾  
チェン・フェンリン 会長

それぞれの地域での、最近の進捗やさまざまな取り組みを情報交換し、皆さまから多くのことを学びたい。それがまさに本会議が開催される理由ではないか。三か国・地域は歴史、社会福祉制度や社会の状況においても、似たような点が多々あり、これまで良好な関係を続けてきた。非常に貴重な意見交換の機会を通じ、政策関係や社会福祉実践に取り組む皆さまが情報交換し、考え方をさらに広げ、よりよい仕事につながることを願っている。

## 政策レポート



日本

### 「日本における保育の課題と対応」



大阪総合保育大学  
学長 大方 美香 氏

少子化・人口減少社会や都市部への若い世代の集中、人材不足といった保育現場の実態や児童虐待相談件数の増加などを背景に、児童福祉法改正やこども家庭庁の創設などの施策が行われています。保育現場では、「量から質へ」の転換、地域における妊娠前から成人するまでの包括的な支援、地域の多様なニーズへの対応が求められています。



韓国



### 「地域に基づいた韓国児童保育サービスの現況と展望」

児童権利保障院  
児童権利本部長 カン・ミギョン 氏

コロナの影響による家庭内での保育時間と費用の急増や、貧困家庭における児童の社会的孤立や放任、生活満足度の低さなど否定的な影響が及ぶ可能性が指摘されており、国の政策として、町保育である、みんなで保育センター（小学生対象）や地域児童センター（18歳未満対象）の整備・充実が図られています。



台湾



### 「台湾における子ども・青少年の健康福祉政策」

台湾衛生福利部社会・家族問題部  
副署長 リー・リンフォン 氏

台湾では、合計特殊出生率が1を切る状況下で、子どもの権利条約に基づき国内法制の整備を進め、母子保健医療施策や虐待やネグレクトの防止のための見守り、中低所得世帯など特別なニーズをもつ子ども・青少年への支援策などを進めています。

## 実践レポート



日本

### 「社会的養護の課題と実践 ～乳児院における実践を中心に」



全国乳児福祉協議会  
会長 平田 ルリ子 氏

近年、家庭の形態的な変化や少子化の急進、複雑化・深刻化する子ども・子育て家庭の課題、児童虐待の増加などが生じています。乳児院では総合支援センターとして、家族のさまざまな相談支援にあたり、親子関係の再構築を図りながら、里親養育を支援するなど、家庭養育に向けたファミリーソーシャルワークへの取り組みを強化しています。



韓国



### 「緑傘子ども財団 インパクト測定の事例」

緑傘子ども財団  
本部長 ハン・ジョンボク 氏

韓国の緑傘子ども財団は、アジア社会福祉従事者研修の複数の修了生が所属している団体です。SDGsに基づき「児童の成長環境の格差解消」を中期目標に掲げ、自立する力の強化、教育機会の保障、住居環境の改善、移住背景児童の保育関係の造成といった各事業について効果測定を行いながら取り組んでいます。



台湾



### 「少年飛行屋（空飛ぶ少年院） ～突破×サービス×好循環」

財団法人 キリスト教治療共同体  
桃園青少年の家  
代表理事 チャン・チンイ 氏

台湾の桃園青少年の家では、非行少年の自立支援のため、音楽や演劇、カフェやキッチンカーでの販売といった地域に根ざした多様な活動を展開するとともに、ウェブチャンネルを開設して情報発信を行うなど、コロナ禍にあるなかでも積極的に活動しています。

## (2022年度)国際交流・支援活動会員にご登録いただいた皆さま

ご登録いただき、誠にありがとうございます。お寄せいただきました会費は、国際社会福祉基金への拠金として受け入れ、大切に使用させていただきます。引き続き、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

**ご登録いただいた法人・個人の方(敬称略) 2023年3月20日現在**

### 【法人・組織会員、賛助会員】

ひとつの会(山口県) / 小諸青葉福祉会 やまびこ園(長野県) / 昴(埼玉県) / ミッドナイトミッションのぞみ会(千葉県) / 堺暁福祉会(大阪府) / 愛里巣福祉会(石川県) / 祉友会(兵庫県) / 村山苑(東京都) / 大阪自彊館(大阪府) / 夕陽会 本福寺こども園(滋賀県) / 天竜厚生会(静岡県) / くすの樹会(福岡県) / 中心会(神奈川県) / 誠信会(静岡県) / 神奈川県匡済会(神奈川県) / 静岡恵明学園(静岡県) / 大阪府社会福祉協議会(大阪府) / 成寿会(秋田県) / 愛生会(秋田県) / ふじ福祉会(大阪府) / 聖徳園(大阪府) / 土佐厚生会(高知県) / 常盤会(鹿児島県) / 六親会(千葉県) / 真宗協会(北海道) / 梓友会(静岡県) / みねやま福祉会(京都府) / 恵の園(群馬県) / 成光苑(大阪府) / 国際保健支援会(長野県) / 晋栄福祉会(大阪府) / 徳心会(東京都) / あすなろ会(島根県) / 慈愛会(福岡県) / 四日市福祉会(三重県) / 県央福祉会(神奈川県)

\*以上、社会福祉法人

(公財) 鉄道弘済会(東京都)

### 【個人会員】

谷 由紀子 / 小林 大真 / 栗和田 敏 / 小林 和弘 / 三上 智代 / 齋藤 霊一 / 高山 科子 / 石井 美奈 / 小林 佳之 / 松原 勇作 / 下山 當子 / 塘林 敬規 / 村上 義孝 / 松下 明 / 辻村 泰範 / 辻村 万里子

※その他 11 名様(本会役員含む)

### 【育むプロジェクト支援会員】

3 名様(本会役員含む)

## 第 2 回国際社会福祉基金委員会を開催しました

2月14日、令和4年度第2回国際社会福祉基金委員会を開催しました。主に、2023年度の国際交流・支援事業にかかる協議のほか、新規事業「育むプロジェクト」の支援内容、修了生助成事業の助成先の審査を行いました。また、インドネシア・ジャワ島西部地震被害への緊急支援について確認しました。

報告・協議事項は右記の通りです。

- **報告事項** .....
  - ・令和4年度事業進捗・決算見込
- **協議事項** .....
  - ・令和5年度事業計画・予算
  - ・インドネシア地震被害への支援
  - ・育むプロジェクト支援内容の審査
  - ・修了生助成事業での支援内容の審査
  - ・国際社会福祉基金の再造成等について

### 社会福祉分野での国際交流に参加しませんか

全国社会福祉協議会では、国際交流・支援を支援する「国際交流・支援活動会員」を募集しております。国際交流・支援活動では、これまで長年にわたり継続してきた、アジア各地域とのネットワークづくりの根幹となる「アジア社会福祉従事者研修」、研修を終えた修了生の現地での福祉活動を支える「修了生福祉活動助成事業」に加え、修了生とのネットワークを生かし子どもたちを個別に支援する新事業「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクトを行っています。これらの活動にご賛同いただける方におかれましては、会員登録いただきますようお願い申し上げます。(QRコードから登録いただけます)

